

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法学概論	担当教員名	原 和子、大星有美
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業が人間の健康に寄与することを理解し、作業療法士はどのようにこれらのテーマを医療、福祉、教育などの分野で展開してきたかについて学ぶ。作業療法の対象となる「障害」についてはWHOによる障害の分類であるICFを理解し、この障害を理解、体験し、考えることによって、作業療法士としてのキャリア形成を明確化する。また、作業療法の歴史的、法的位置付け、実際の方法論などの概要について理解し、各技術論や実習を学ぶ態度を身につける。		
到達目標	1. 作業療法の歴史、作業と健康、作業療法の概要を説明できる。 2. 作業療法士に求められる専門性とは何かを考え、作業療法の理論と概要をまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回 原	オリエンテーション、作業療法の歴史	授業概要と作業療法の歴史、理論背景の概要。テキスト1～2章	
第2回 原	作業療法の歴史	PBL1（作業療法の歴史を調べ発表する）	
第3回 港、大星	作業科学（作業正当性 occupational justice、作業バランス 他）	作業の影響力	
第4回 港、大星	作業科学		
第5回 港、大星	作業科学		
第6回 港、大星	作業科学		
第7回 港、大星	作業科学		
第8回 原	カナダ作業遂行プロセスモデル（Canadian Model of Occupational Performance）	作業ができるということ（Enabling Occupation）	
第9回 原	人間作業モデル（Model of Human Occupation）	作業への意志、習慣化、遂行能力作業と環境との関係	
第10回 原	人間作業モデルまとめ	PBL2（作業遂行障害症例）	
第11回 原	感覚統合理論	発達との関係	
第12回 原	感覚統合理論に基づいた作業療法	PBL3（発達障害、認知症など）演習と発表	
第13回 原	作業療法の生体力学的理論（手外科）	PBL4（手外科）演習と発表	
第14回 原	作業療法の神経発達理論（片麻痺）	片麻痺の作業療法、理論と実際	
第15回 原	作業療法概論まとめ	ポートフォリオ作成、質疑応答	
テキスト・参考書	教科書：ギャリー・キールホフナー、監訳 山田孝 作業療法実践の理論 原書第4版、医学書院 エガース・片麻痺の作業療法 協同医書出版社 参考書：杉原素子 編集 作業療法概論 協同医書出版		
学修方法	各テーマについて講義及PBL（問題解決型学習）びを行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	ポートフォリオ、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（50%）、定期試験成績（50%）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	専門基礎科目で学んだ解剖学、生理学、各疾患について予習、復習を行い受講すること		

学部 研究科	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	基礎作業学	担当教員名	原 和子
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法学を支えている基礎的な知識として、人間にとって「作業」とは何か、その本質と役割を理解する。作業と健康の関連性を医学、福祉学、社会学視点から確認し、さらに作業を治療として用いるための仕組みを学ぶ。作業が人間にとって環境適応として、どのような意味を持つのか、健康に寄与するためにかかせない要素はなにか、生活と個人の生涯設計を形成する作業と、作業療法という形で医療分野に位置付けられてきた過程を考える。		
到達目標	1. 作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を説明できる 2. 作業分類の特徴と、作業と運動生理機能・心理機能・ライフステージとの関係について説明できる 3. MTDLPについて説明できる 4. 作業分析の方法について説明できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス、作業と健康概念の歴史	作業の語りと創作、自己実現とwellbeing	
第2回	音楽療法 演習	集団力学、レクリエーションの要素	
第3回	音楽療法 身体活動（ダンス、体操など）	集団力学、レクリエーションの応用	
第4回	絵画療法、個人的な作業の意味	パステル画の体験と分析 演習	
第5回	絵画療法、グループ作業演習	集団力学、文化的背景、社会学視点の応用	
第6回	絵画療法、グループ作業演習 発表	絵画応用、演習、発表	
第7回	作業分析（園芸）演習	園芸療法の領域とその内容、グループ活動	
第8回	作業分析（園芸療法）発表	園芸療法の領域とその内容	
第9回	作業分析（織物）演習	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）	
第10回	作業分析（織物）発表準備	織物作業の遂行評価からの分析他	
第11回	作業分析（織物）発表	織物作業の分析と応用	
第12回	作業の指導（木工）テーマの作り方	教育的、生体力学的、精神心理学的分析とその指導	
第13回	構成的作業の指導	演 習（木工等）	
第14回	構成的作業分析	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）	
第15回	まとめ。発表と質疑応答	問題解決課題についての発表、討議	
テキスト・参考書	テキストはプリントを配布する。参考書は、		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	ポートフォリオ（50％）、発表（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	予習復習に加えて、質疑応答、活発な意見交換を期待します		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教員名	小澤 敏夫・原 和子・酒向 俊治
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的応答を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心とした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。		
到達目標	身体運動の仕組み、日常生活の行為について基礎的な専門用語を用いて説明できる。 実習課題についてレポートにまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	レポートの作成方法、グループでの学習、発表方法	
第2回	下肢帯と下肢の運動(1)	股関節の運動	
第3回	下肢帯と下肢の運動(2)	膝関節の運動	
第4回	下肢帯と下肢の運動(3)	足関節の運動	
第5回	上肢帯と上肢の運動(1)	肩複合体の運動学、肩甲上腕リズム	
第6回	上肢帯と上肢の運動(2)	肘関節、前腕の運動学	
第7回	上肢帯と上肢の運動(3)	手関節、手指の運動学	
第8回	体幹の運動学	脊柱、体幹の運動学	
第9回	姿勢と歩行	姿勢、正常歩行と異常歩行、走行	
第10回	歩行周期と筋活動、重心移動	通常歩行の観察、分析体験する	
第11回	歩行分析：応用歩行	応用歩行の観察、分析体験する	
第12回	運動発達	発達と発達分析	
第13回	運動学習	運動学習の種類と諸理論	
第14回	運動とエネルギー供給	運動時のエネルギー代謝と運動処方	
第15回	まとめ、ポートフォリオ作成	グループ発表、質疑応答、ポートフォリオ作成	
テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21134-2		
学修方法	事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解し、実習当日の説明の際、不明な点について質問する(30分程度)。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる(1時間程度)。		
評価方法	小テスト(20%)、定期試験(筆記試験)80%		
オフィスアワー	水曜日 16:10~17:00		
備考・履修条件	欠席をしないように心がけてください。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科	
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員名
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法
単位数	1単位	必修/選択
授業の概要	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けられる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、そのケアマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を学ぶ。	
到達目標	1 地域特性を把握する視点を述べられる。 2 地域特性（地域のニーズ）に応じた地域包括ケアシステムの在りかたを説明できる。 3 地域包括ケアシステムのなかで医療におけるリハビリテーションの役割を説明できる。 4 生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの役割を説明できる。	
授 業 計 画		
回数	授業テーマ	
第1回	地域包括ケアシステムの概念	地域包括ケアシステムの役割と意義
第2回	健康維持と障がい予防、介護保険サービス	生活支援のための介護保険サービスの提供について理解する。
第3回	退院前の多職種連携	保健医療福祉政策の現状と課題
第4回	地域包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携	在宅における多職種連携の意義
第5回	ケアマネジメントの概念と役割	ケアマネジメントの概念と役割
第6回	ケアマネジメントの過程を個別支援計画	ケアマネジメントの過程を個別支援計画
第7回	ケアマネジメントの実際1	地域における自助・共助（地域支援計画）を理解する。
第8回	ケアマネジメントの実際2	障がい者の地域生活支援の意義
テキスト・参考書	教科書：プリント配布 参考書：適宜紹介する	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを配布し、質疑応答を行う。	
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験の成績（80%）	
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

藤井 稚也
講義
必修

するためには地域包括ケアシステムの構築が急
 ぎ、病院や施設と地域の連携、地域ケア会
 議の範囲は地域における自助と互助の強化に向け
 る。各役割の種類と重要性を学び理解す

り方について述べられる。
 への在り方および連携について説明できる。
 への提供について理解する。

授業内容

とは何か、その歴史。その中でのリハビリ
 を理解する。

介護保険サービスにおけるリハビリテーション
 解する

り過程について理解する。

重連携について理解する。

における多職種の役割、連携について理解す

り過程について理解する。

と互助の強化に向けたマネジメント（個別支援

舌に必要な生活支援を自ら考える。

まう。

試験成績（80%）

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	表面解剖学	担当教員名	原 和子
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修・選択
授業の概要	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、神経、血管は、リハビリテーション医療をすすめる上で、基本的な指標となる。リハビリテーション医学評価に関わる検査時、運動療法や作業療法時における活動の注意深い観察と触診は病的変化があるかどうか、治療の効果判断の重要な決め手となることを学ぶ。		
到達目標	①体表で触察できる運動器系筋、骨、神経の解剖学的特徴を口頭で説明できる ②摂食嚥下療法で必要な筋、器官を触察できる ③手外科、ハンドセラピーで必要な筋、骨、静脈、動脈を触察できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	触察の基本。姿勢と運動。	臥位、四つ這い位、座位、立位の分類と意味	
第2回	触察の基本。関節、筋、腱、神経、血管	関節、筋などの触れ方	
第3回	肩甲骨と体幹周囲の骨、筋、腱、神経、血管	肩甲骨周囲筋、特に前鋸筋	
第4回	上肢：肩関節周囲の骨、筋、腱、神経、血管	回旋筋腱版 (rotatoe cuff) 、上腕二頭筋	
第5回	上肢：肘周囲の骨、筋、腱、神経、血管	特に前腕回内運動に関わる骨、筋	
第6回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	前腕筋群（外来筋）を主に	
第7回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	手筋（内在筋）を主に	
第8回	下肢：股関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨盤、大転子、特に中殿筋を主に	
第9回	下肢：膝関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	特に膝伸展に関連する大腿四頭筋	
第10回	下肢：足関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靭帯を主に	
第11回	下肢：足部の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靭帯を主に	
第12回	体幹-胸郭・脊柱関連	姿勢、運動との関連における視診と触察	
第13回	体幹-胸郭・脊柱関連	姿勢、運動との関連における視診と触察	
第14回	体幹-胸郭・脊柱関連	摂食嚥下療法での視診と触診	
第15回	まとめ	質疑応答とポートフォリオ作成	
テキスト・参考書	教科書：「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社 参考書：上羽康夫「手 その機能と解剖」金芳堂		
学修方法	各テーマについての講義と演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	小テスト、ポートフォリオ（50%）、定期試験成績（50%）		
オフィスアワー	水曜日 16：00～17：00 研究室		
備考・履修条件	予習、復習をし、ポートフォリオにまとめておくこと。積極的な発言、質問を期待します。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療学科		
授業科目名	作業療法評価概論	担当教員名	澤 俊二・大星 有美
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法における評価の位置付けとその具体的な内容について講義する。作業療法評価の位置付けとしては、評価は障害の原因を探るためのデータ収集であり、個々の評価結果のみで判断し得るものではないことを強調し、問題点や目標設定との関連性も含めた統合と解釈の重要性を学ぶ。具体的な内容としては、作業療法評価の概要・目的・測定機器の使用法・流れについて論じ、問診、観察、バイタルサイン、形態測定、神経学系測定、運動機能評価、呼吸・循環・代謝機能評価、高次脳機能評価等を学び、その内容を理解する。		
到達目標	①評価の流れ、手段について理解する。 ②面接・観察法について理解する。 ③各評価・検査項目について、概要、目的、測定機器、記録方法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	作業療法評価序論（1） 澤	ICFおよび作業療法について 作業療法アプローチ トップダウンとボトムアップ 事例 評価および作業療法評価の意義と目的を理解する	
第2回	作業療法評価序論（2） 澤	情報収集 面接 観察 検査測定 種々評価 統合と解釈 プログラム立案 再評価の流れと他部門連携の意義	
第3回	面接：カナダ作業遂行測定 澤	面接の基本的な進め方、形式の分類、留意点等を学ぶ カナダ作業遂行測定を学ぶ	
第4回	観察：トップダウンアプローチでの観方 澤	定義と意義、観察の種類、全身状態の観察等を学ぶ トップダウンアプローチでの観方を事例を通して学ぶ	
第5回	領域共通の評価法：日常生活活動の評価法：FIM等 日常生活関連活動の評価法：FAI等 澤	領域共通の評価法：日常生活活動の評価法：FIM等 日常生活関連活動の評価法：FAI等を学ぶ	
第6回	領域共通の評価法 検査・測定：ボトムアップアプローチ データ重視 大星	領域共通の評価法 検査・測定：ボトムアップアプローチ データ重視 の考え方を学ぶ	
第7回	領域共通の評価法：作業遂行分析評価 AMPS 澤	領域共通の評価法：作業遂行分析評価 AMPSを学ぶ	
第8回	領域共通の評価法：1.生活行為向上マネジメントの興味関心リスト 2.住環境評価 澤	1.生活行為向上マネジメントと興味関心リストを学ぶ 2.住環境の調整のための評価を学ぶ	
第9回	領域共通の評価法：急性期・回復期・生活期・終末期リハうつ状態評価 介護評価 QOL評価 終末期リハの評価 澤	急性期・回復期・生活期・終末期リハ：うつ状態評価 介護評価 QOL評価 終末期リハの評価 を学ぶ	
第10回	身体機能評価法： 大星	身体機能評価法：形態計測・関節可動域測定・筋力検査・上肢機能検査等の評価の概要を学ぶ	
第11回	高次脳機能評価法： 大星	高次脳機能評価法：高次脳機能障害について理解し、注意・記憶・言語・行為・認知等の評価の概要を学ぶ	
第12回	精神機能評価法： 大星	精神機能評価法：評価の目的と留意点、情報収集、観察法・面接法・検査法の概要を学ぶ	
第13回	発達過程評価法： 大星	発達過程評価法：検査の目的と留意点、発達過程の運動・感覚・認知機能等の評価の概要を学ぶ	
第14回	高齢期機能評価法： 大星	高齢期機能評価法：高齢者の特性を理解し、高齢期の認知・知的機能や認知症の評価の概要を学ぶ	
第15回	就労の評価： 大星	就労の評価：就労支援の流れを理解し、職業評価で使用されている検査の概要を学ぶ	
テキスト・参考書	教科書：能登真一 他編 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 吉川ひろみ：COPM/AMPSスターティングガイド 参考書：澤俊二、鈴木孝治編著：作業療法評価のエッセンス、医歯薬出版 斉藤祐樹：作業で語る事例報告、医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、レポート（10%）、定期試験成績（60%）		
オフィスアワー	木曜日 16:10～17:00 澤研究室 大星研究室		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する教科書を読みこんでおく。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習 I (基礎)	担当教員名	澤・原・大星・藤井
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療施設、福祉施設の見学を通して社会や医療の中における作業療法士の役割と責任を全体的に理解する。そのために、実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得する。また、本実習以降の専門的な学修を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。		
到達目標	実習施設内での作業療法科の位置づけ、他職種との連携業務の流れ、作業療法の業務内容を理解することができる。対象者の疾患・障がいより、必要な基本的知識・技術・態度を理解できる。作業療法士としての支質について理解できる。対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取ることができる。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則1施設あたり1~2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 3) 学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会人としての適切な態度の理解と実施。 (2) 医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解。 (3) 医療従事者の役割や業務の流れの理解。 (4) 医療従事者の患者との関わり方の理解。 (5) 守秘義務、個人情報保護の理解・実施。 		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、標準予防策等のリスク管理指導、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	別途指示する。		
評価方法	出席20%、提出物20%、実習報告会50%、評価表20%		
留意事項 (履修条件他)	1年次配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	実践力演習 I	担当教員名	原・大星・宇佐美・藤井
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリ専門職は対象者とその家族、他の医療福祉職との良好関係を築くことが重要である。そのためには、礼節や共通知識・技能・態度はもとより、自身の目指す療法士や各医療専門職の役割を学ぶ必要がある。また、リハビリ専門職としての自主性、判断力は必要不可欠である。 本講義では、アクティブラーニングを主体とし、礼節とコミュニケーション技能、医療福祉職の共通知識と技能、医療福祉職の役割を学修することで基礎的な実践力の養生をはかる。		
到達目標	①作業療法士と他の医療福祉専門職の働く領域と役割について説明することができる。 ②他の医療福祉専門職と良好関係を築くことの必要性を説明することができる。 ③自主的に目標や課題を見つけることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	学習意欲と目的	作業療法場面を見聞し、自身の目指す療法士像や目標・課題について考察する。	
第2回	目標設定の考え方	目標設定シートを使用して、学習目標のつながりを明確にする。	
第3回	作業療法プロセスの実践	作業療法プロセスを学習し、シートから目標を5つ選択し、遂行度と満足度を記入する。	
第4回	計画の立案	PDCA理論に基づき、設定した目標の達成に向けてプランニングする。	
第5回	発表	目標設定からプランニングまでの内容をPowerpointにて発表する。	
第6回	臨床技能の概要と心構え	臨床で求められる知識や技能に関する概要と心構えについて学習する。	
第7回	標準予防策とリスク管理	臨床場面で必要とされる標準予防策とリスク管理の知識・技術を学習する。	
第8回	コミュニケーション技法	患者等とのラポール形成や情報収集に必要なコミュニケーション技法に関する知識・技能を学習する。	
第9回	ホットパック実施の補助	臨床で最も用いられる温熱療法のひとつであるホットパックの作用、適応と禁忌、補助方等の知識・技能を学習する。	
第10回	上肢管理（三角巾等の装着）	麻痺や外傷後の二次的合併症の予防等に必要の上肢管理に関する知識・技能を学習する。	
第11回	下肢装具の装着介助	装具の定義と下肢装具の目的、および代表的な下肢装具の種類とその装着介助に関する知識・技能を学習する。	
第12回	車椅子の駆動介助	作業療法士が日常的に実施する車椅子の駆動補助の方法とリスクに関する知識・技能を学習する。	
第13回	移乗介助	ベッドから車椅子、車椅子からトイレ等といった、目的や場面別の移乗動作の介助方法に関する知識・技能を学習する。	
第14回	知識と技能の確認	第7-13回までに学習した知識・技能の習得状況を確認し、自他によるフィードバックを得る機会とする。	
第15回			
テキスト・参考書	監修 才藤栄一：PT・OTのための臨床技能とOSCE - コミュニケーションと介助・検査測定編-第2版補訂版		
学修方法	各回に定めた知識・技能を習得するために演習形式にて実施する。		
評価方法	OSCE（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00 研究室		
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		